

2003年度 鉄道事業設備投資計画

サービス向上、安全対策、環境対策などに
総額174億円を投入

エレベーター・エスカレーターなどのバリアフリー化をさらに推進します。
人と環境にやさしい通勤車両20000系を20両新造します。

西武鉄道（社長：戸田博之）では、サービス向上、安全対策、業務の効率化、環境対策および輸送力増強をはかるため、今年度は総額174億円を投入して鉄道事業の設備投資を行います。

サービス向上としては、人にやさしい鉄道をめざしてエレベーター・エスカレーターなどのバリアフリー設備の設置を進めます。また、人と環境にやさしい通勤車両20000系を新造して快適通勤をめざします。

安全対策としては、山手跨線橋架け替え工事、列車情報装置の導入やホーム安全対策などの工事を引き続き進めるとともに、今年度から多摩川線武蔵境駅付近高架化工事などに着手します。

業務の効率化としては、駅の遠隔監視化等を進めるとともに、環境対策として、通勤車両9000系を改造し省エネルギー化をはかります。

輸送力増強としては、混雑緩和のために進めてきた池袋線・桜台（新桜台）～石神井公園間の高架複々線化事業のうち、今年3月に桜台（新桜台）～練馬高野台間の複々線化が完成しましたが、残る石神井公園付近について、東京都の都市計画決定に向けて関係機関との協議を進めていきます。

詳細は別紙のとおりです。



人と環境にやさしい通勤車両20000系

< サービス向上 >

駅のバリアフリー化

より便利で人にやさしい鉄道を目指して、国、地方自治体等の協力を得ながらエレベーター・エスカレーターをはじめとするバリアフリー設備の設置を進め、お年寄りやお体の不自由なお客さまにも安心してご利用いただけるようにします。

ひばりヶ丘駅（エレベーター3基、エスカレーター5基などを設置）

駅舎と自由通路の改修を行い、あわせて改札内にエレベーターを2基、エスカレーターを4基、および南口にエレベーター・エスカレーターを各1基設置します。また、多機能トイレの新設、ホーム上家の建替え、ホームの嵩上げ・全面待避化、上りホームの拡幅などを実施します。改札内のエレベーター・エスカレーター、多機能トイレは今年度中に使用開始します。全体の完成は平成17年度の予定です。

上石神井駅（エレベーター4基などを設置）

各ホームとコンコースを結ぶエレベーターを各1基、自由通路と北口、南口を結ぶエレベーターを各1基設置します。また、多機能トイレの新設、旅客トイレの移設、ホーム嵩上げ等を実施します。

東伏見駅（エレベーター4基、エスカレーター4基などを設置）

各ホームとコンコースを結ぶエレベーター・エスカレーターを各1基、自由通路と北口、南口を結ぶエレベーター・エスカレーターを各1基設置します。あわせて多機能トイレの新設、旅客トイレの改修、ホーム嵩上げ等を実施します。また、駅事務室を改修し、お客さまご案内用オープンカウンターの設置や運賃表の傾斜化などを実施します。

新狭山駅（エレベーター4基などを設置）

各ホームとコンコースを結ぶエレベーターを各1基、自由通路と北口、南口を結ぶエレベーターを各1基設置します。また、多機能トイレを新設します。

東久留米駅（エレベーターを1基設置）

自由通路と東口を結ぶエレベーターを1基設置します。

その他

小川駅のエレベーターと大泉学園駅北口のエスカレーターが老朽化したため更新します。

駅務機器関係

新型券売機を導入

老朽化した回数券券売機の更新として、JR東日本などと共同で開発した回数券発売機能を備えた新型券売機を、平成14年度に続き今年度は27台導入します。また、従来回数券券売機が未設置であった元加治、西武園、青梅街道、八坂、武蔵大和の各駅にも新型券売機を設置し、無人となる時間帯でも回数券が買えるようにします。

その他

池袋駅の特急専用改札口に自動精算機を1台増設します。

車両関係

通勤車両20000系を新造

老朽化した101系車両の代替として、通勤車両20000系を2編成20両新造します。今年度新造する車両は、お年寄りやお体の不自由なお客さまに配慮して優先席部分のつり革および荷物棚の高さをそれぞれ10センチメートル低くします。また、7人掛け座席のスタンションポール（仕切り棒）を2本とします。さらに、先頭車の車いすスペースに折りたたみ座席を取り付けます。

特急車両の車内装備を更新

特急車両10000系は平成5年度に第1編成が新造されてから10年が経過し車内装備が老朽化してきました。このため今年度から平成20年度にかけて座席および内装の更新、喫煙車の換気改善、トイレの内装更新、出入口ドアへのLED式案内表示器取付、洋式トイレの自動ドア化などを順次実施することにより、車内装備を一新して品質維持を図ります。今年度は1編成実施します。

< 安全対策 >

山手跨線橋架け替え工事

池袋線の山手跨線橋は老朽化してきたため、平成13年度より架け替え工事に着手しています。昨年度は池袋駅付近から山手跨線橋までの工事搬入路の設置工事を実施しましたが、今年度はおもにJR線上への工事搬入路の設置や工事桁の設置工事を行います。工事の完成は平成20年の予定です。

列車情報装置の導入

列車の種別に応じて踏切の警報開始地点を自動的に変える急緩行列車選別装置の老朽更新にあたり、従来の機能に加えてよりきめこまかい制御ができる列車情報装置を導入します。平成16年度末にはすべて新装置に更新する予定です。

信号・電灯電力の電源二重化

信号機や踏切警報装置などに使う信号電力と駅の照明やエレベーター・エスカレーターに使う電灯電力の送電形態を共通化します。これにより、信号の保安度向上や駅の無停電化が実現します。平成14年度までに池袋～東久留米間、西武新宿～花小金井間が完成し、今年度は、東久留米～西所沢間、花小金井～南入曽間が完成します。

運行管理システムの更新

運行管理システム（セムトラック）はコンピューターに記憶させた列車ダイヤに基づいて信号機や転てつ器を自動的に制御することにより、運転司令業務の迅速性、確実性を向上させ高品質の列車運行を確保するとともに、お客さまのサービスのためにきめ細かい行先案内表示や自動放送を行なうための装置です。このシステムを最新のシステムに更新します。これにより、従来よりもさらにきめ細かい情報提供が可能になります。平成17年度末には更新が完了する予定です。

多摩川線武蔵境駅付近連続立体交差化

JR中央線高架化工事に伴い、多摩川線についても東京都の都市計画事業として武蔵境駅付近の高架化工事を実施し、武蔵境第1号、第2号、第3号踏切を立体交差化します。今年度から駅部分の高架橋工事に着手します。工事の完成は平成20年度の予定です。

ホーム安全対策

ホームからの転落事故に対する安全対策として、ホーム関係では、今年度7駅に列車非常通報装置（防護無線式）、5駅にホーム待避口、13駅に列車進入警報装置を設置する予定です。車両関係では、車両間に外ホ口を取り付ける工事を347両行います。これにより、全車両（運転台部分を除く）への設置が完了します。

列車非常通報装置設置予定駅：江古田、保谷、清瀬、秋津、上石神井、小平、久米川

ホーム待避口設置予定駅：豊島園、新狭山、西武園、拝島、萩山

列車進入警報装置設置予定駅：保谷、清瀬、秋津、新井薬師前、久米川、新所沢、豊島園、西吾野、正丸、芦ヶ久保、横瀬、西武秩父、西武園

外ホ口設置車両数：347両

踏切事故防止対策

踏切支障検知装置の新設（上石神井第3号踏切など20踏切）、交通信号型補助閃光灯の設置（田無第9号踏切）、踏切遮断機の取り替え（100台）などを引き続き実施します。

< 業務の効率化 >

駅の遠隔監視

西所沢駅、下山口駅の連動装置老朽更新にあわせて、下山口駅の連動装置を西所沢駅で遠隔制御する方式に改修します。完成は平成17年度の予定です。また、遊園地西駅を遠隔監視する設備も今年度導入します。

省力化軌道

列車運行・自然環境などにより変化する線路設備を保守するためには多くの労力がかかりますが、このコストを下げるために省力化軌道を敷設し、線路保守費用の削減に努めています。今年度は東長崎～江古田間の下り線にTC型省力化軌道を敷設します。

< 環境対策 >

ロングレール化

レールの継ぎ目部分を列車が走行する際に発生する音や振動を軽減するために、従来からロングレール化を推進しています。すでに、急曲線等を除く敷設可能箇所約94%をロングレール化していますが、今年度も秋津～所沢間上下線および東久留米～清瀬間上り線でロングレール化を実施します。

分岐器改良

列車通過の際の音や振動が少ない改良分岐器の敷設を進めています。今年度は石神井公園駅構内および西所沢駅構内の分岐器を改良します。

無絶縁軌道回路化

従来、信号を制御するためには、レールに絶縁継ぎ目を入れることが必要でしたが、この継ぎ目が騒音の原因となり、なおかつレールの消耗を早める原因となっていました。無絶縁軌道回路は絶縁継ぎ目の必要ない信号制御方式で、池袋～小手指間、西武新宿～南入曽間で導入します。平成14年度から井荻～上石神井間で工事を進めており、今年度はさらに上石神井～東伏見間、ひばりヶ丘～東久留米間で工事に着手する予定です。

車両の省エネルギー化

平成11年度より導入している通勤車両20000系は、アルミ製の軽量車体やVVVFインバータ制御の採用などによって電力消費量が少なく環境にやさしい車両となっています。今年度からは新たに9000系車両をエネルギー消費の多い抵抗制御方式から省エネルギー効果の大きいVVVFインバータ制御に改造する工事に着手します。本年度から5年間で全8編成の省エネルギー化改造を実施する予定です。

また、電動空気圧縮機(6台)、電動発電機(1台)を省保守・低騒音型のものに更新するとともに、車両クーラー58台を冷媒にオゾン層破壊のおそれのない代替フロンを使用したものに更新します。

< 輸送力増強 >

高架複々線化工事 [桜台(新桜台)～石神井公園間]

池袋線では混雑緩和を図るため桜台(新桜台)～石神井公園間の高架複々線化工事を進めてきました。このほど本年3月に練馬～中村橋間の複々線化が完成し、桜台～練馬高野台間の高架複々線化完成という節目を迎えました。

残る石神井公園駅付近の高架複々線化については、同駅において急行と各駅停車を同一ホームで乗り換えられるようにすること、同駅に設置する折返し線を使用して営団有楽町線直通電車や13号線直通電車を運転することなどのためにぜひとも必要です。一日も早く着工できるよう東京都など関係機関と協力して都市計画決定を受けるために必要な諸手続きを進めます。

この資料は次のところにお届けしています。

国土交通記者会
所沢記者クラブ
各社都内版担当

ときわクラブ
立川市政記者クラブ
西武線沿線の新聞社支局(立川・武蔵野・川越)